

# 職能科通信 44号

2019年12月発

職能科通信

検索

〒243-0121  
神奈川県厚木市七沢 516  
神奈川県リハビリテーション病院  
職能科  
TEL&FAX 046-249-2571

## 高次脳機能障がいの方の集団訓練について

職能科は、神奈川県リハビリテーション病院に組織され、入院・外来患者さんへ診療報酬制度外の訓練として職能評価、個別訓練、集団訓練等の職業リハビリテーションを提供しております。集団訓練に関しては、模擬職場、職業準備学習、問題解決グループ、失語症交流会などを実施してきました。

高次脳機能障がいの方の集団訓練の効果の一つに、渡邊は「高次脳障がい者が社会復帰する際に大きな障害要因となる病識の低下が改善することにあると考えている。小グループの活動が互いの仲間意識、連帯感を深めるとともに双方の障害を認識し、自己の障害をも認知する機会を与えらると思われる。外部から誤りを指摘するのではなく、環境調整された小社会の中で、自らが『気づく (awareness)』という視点である。」\*1)と述べている。このように当科で実施してきた集団訓練からも参加者の意欲の向上や共通した悩みを抱えているなど自らの「気づき」や他者の発言に共感、または客観的に考へ捉えるなど、新たに自己を顧みる契機となるなど変化や効果を感じています。

現行の診療報酬制度では個別訓練が原則でありの集団療法は制度外ですが、当科では昨年度より配置人員に作業療法士1名、今年度は2名体制となり、より医学的な視点を盛り込んで取り組んでいます。患者さんの状況に応じ、入院から退院後の地域生活の安定や社会資源へのスムーズな移行を目指した新たな集団訓練も始めています。

今号では、今年度より施行している集団訓練の一部をご紹介します。(進藤 育美)

文献\*1) 渡邊修：病院で行う高次脳機能障がいリハビリテーション Journal of Clinical Rehabilitation vol.21 no.11 2012

### 【園芸グループ】

再整備工事の終了に伴い、6月頃から病院西側の空き地の開墾、瓦礫の除去や除草などを行い、作業環境を整えました。活動は、基本的に模擬職場のメンバーを中心に実務課題の一つのメニューとして、芝生の管理、管理棟横の花壇の整備、野菜や草花の苗の育成などを役割分担し、協力しながら作業を実施しています。成果物を活用して、接客などの対人スキルのトレーニングも行っています。



小児の患者さんが芝生で寝転んだり、高齢の患者さんが足を止め、花を愛でられたりと、患者さんの癒しの空間になっていることを実感しています。現在、春の花壇の準備中です。ご期待ください。(山崎 修一)

## 【社会参加支援部門 社会参加グループ】

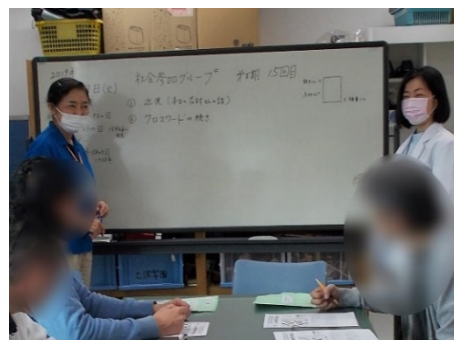
社会参加支援部門には入院と外来の患者さんが所属し、まずは安定した在宅生活を目指して訓練を行っています。今年度立ち上げた2つのグループのうち、「社会参加グループ」について紹介します。

メンバーは当院を退院した男性6名です。年代は主に50代で30代が一人です。退院されてからの期間は短い方から数年経過している方など幅があります。一人暮らしで、地域資源や相談機関にもつながっていない方もいるため、それぞれの生活時間の記録、生活の振り返りから始めました。

社会参加をしていくには健康、体力、生活リズムといったベース作りが必要です。これらの項目を掘り下げ、食事、運動量（歩数）、服薬について考えることや利用されている地域資源について話しています。情報交換や自身の事を振り返られるような形で進めています。

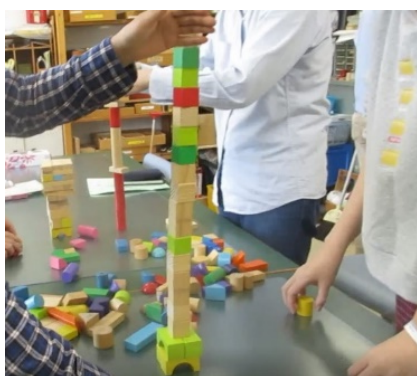
テーマについては今後も生活に沿った物や関心を持っていただきたい事を取り入れて行きたいと思っています。

メンバー同士の交流の中でお互いの関わりが活発になり、笑顔が増える等の変化もあり、少しずつですが成果を感じています。（鈴木 才代子）



## 【就労支援部門 高次脳機能障がい者を対象にした 集団認知リハビリテーションの取り組み】

就労支援部門では、高次脳機能障がいの方を主な対象として、集団認知リハビリテーションの要素を取り入れたグループ訓練を今年度より試行的に実施しています。入院中と外来に移行した患者さんを中心にコミュニケーションやゲームを通じたグループ課題を提供しています。まだ認知機能回復が緒にすぎたばかりの方の場合、「楽しみながら」「習慣化する」「自分が所属していると感じられる居場所をつくる」といった支援がキーポイントとなります。



「仲間から受け入れられている」「尊重されている」といった自己肯定感を高めることは、その後に続く就労支援のキーワードである「気づき (awareness)」を高めるための心理的な基盤をつくります。職能科では患者さんの症状の段階に応じた訓練プログラムを整備して、就労に向けた支援を充実させるため日々努力をしております。（小林國明）